

## 入札条件及び指示事項

入 札 条 件	<p>1 受注者は、土木工事の施工に当たっては、公告日又は指名通知日における最新の「山口県土木工事共通仕様書」及び「山口県土木工事施工管理基準」によること。 これらの共通仕様書、施工管理基準は、山口県技術管理課HPを参照のこと。</p> <p>2 当該工事の施工条件並びに仕様及び特記事項は、施工条件書並びに設計書及び特記仕様書のとおりとする。特別な定めのない事項については、下松市契約規則及び下松市工事請負規程によること。</p> <p>3 受注者は、工事の施工にあたっては、関係法規を遵守し、常に適切な管理を行うものとする。</p> <p>4 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積った契約希望金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。</p> <p>5 施工条件書、設計書、特記仕様書等で産業廃棄物の最終処分が指定されている場合は、産業廃棄物税として処分量1トンあたり1,000円を見込むこと。また、処分方法の変更等により、課税対象とならなくなった場合は、当該金額を減じた額で変更契約する。</p> <p>6 落札者は、現場説明書において契約保証金を「必要」と記載した場合は、契約金額の100分の10以上の契約保証金を納付すること。ただし、国債（利付国債に限る。）の提供又は金融機関若しくは公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社の保証をもって契約保証金の納付に代えることができる。また、債務の履行を保証する公共工事履行保証証券による保証又は債務の不履行により生ずる損害をてん補する履行保証保険契約を締結した場合、契約保証金を免除する。設計金額が1,000万円未満の工事の場合も契約保証金を免除する。</p> <p>7 現場代理人の配置については、「下松市現場代理人取扱要領」の定めによる。なお、同要領における「現場代理人の資格要件」に記載された「直接的な雇用関係」については、主任技術者又は監理技術者の例による。</p> <p>8 主任技術者又は監理技術者と受注者との間の雇用関係については、「監理技術者制度運用マニュアルについて（令和4年12月23日国不建第457号）」における「二一四 監理技術者等の雇用関係」における「二一四監理技術者等の雇用関係」によること。</p> <p>9 本工事において、特例監理技術者の配置を行う場合は以下のア〜クの要件を全て満たさなければならない。</p> <p>ア 建設業法第26条第3項ただし書による監理技術者の職務を補佐する者（以下「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。</p> <p>イ 監理技術者補佐は、一級施工管理技士補又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。</p> <p>ウ 監理技術者補佐は入札参加者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。</p> <p>エ 同一の特例監理技術者が配置できる工事の数は、本工事を含め同時に2件までとする。（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるもの（当初の請負契約以外の請負契約が随意契約により締結される場合に限る。）については、これら複数の工事を一の工事とみなす。）</p> <p>オ 特例監理技術者が兼務できる工事の施工場所は、本工事の施工場所から概ね10km以内の工事であればならない。なお、兼務する工事の発注機関は問わない。</p> <p>カ 特例監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行できること。</p> <p>キ 特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。</p> <p>ク 監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。</p> <p>10 特例監理技術者及び監理技術者補佐の確認 建設業法第26条第3項及び建設業法施行令第27条第1項に該当する場合は、当該技術者は専任でなければならない。（現在従事している工事の従事役職が主任技術者又は監理技術者であり、本工事と重複する期間が生じる可能性がある場合、当該技術者は本工事における工期の始期以降、他工事において専任していないこと、かつ現場施工に着手する時点で他工事が完成しており当該工事に専任できること。）</p>
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ただし、特例監理技術者の配置を行う場合は本工事を含め2工事を上限とし兼務ができるものとする。また、この場合において、本工事に専任で配置を行う監理技術者補佐は、本工事における監理技術者補佐として配置後、他工事において専任していないこと、かつ現場施工に着手する時点で他工事が完成しており当該工事に専任できること。なお、特例監理技術者を配置する場合、特例監理技術者は常駐義務を要する現場代理人との兼務は認めない。

- 11 入札に当たっては、入札書と同時に工事費内訳書を提出すること。
- 12 当該工事が、入札参加者からの技術提案を受け付け、価格以外の要素と価格を総合的に評価して落札者を決定する総合評価方式の適用工事である場合は、総合評価に関する事項を以下のとおりとする。
  - (1) 入札参加者は別に定める日までに、総合評価に係る資料（以下「技術提案資料」という。）を提出すること。また、技術提案資料を提出しない者の入札書は無効とする。
  - (2) 技術提案資料とは、(3)で求める評価項目について入札参加者が必要事項を記載する資料のことをいう。
  - (3) 提出を求める評価項目及び配点等については、別添「技術提案資料の提出について」のとおりとする。
  - (4) 技術提案資料について、別添「技術提案資料の提出について」により各評価項目得点の合計（以下「加算点」という。）を算出する。
  - (5) 落札者の決定方法については以下のとおりとする。
    - ① 標準点(100点)に加算点を加えた技術評価点を当該入札者の入札書記載価格で除したものを評価値とする。
    - ② 入札書記載価格が入札書比較価格の制限の範囲内にあり、また評価値が標準点を入札書比較価格で除した値（基準評価値）を下回らない者で、低入札価格調査制度において不落札でない者のうち、評価値の最も高い者を落札者とする。なお、評価値の最も高い者が2人以上あるときは、くじにより落札者を定めるものとする。
  - (6) 技術提案資料の作成及び提出に要する費用は提出者の負担とする。また提出された技術提案資料は返却しない。
  - (7) 受注者は、「簡易な施工計画」において提案した施工計画のうち、点が付与された項目については、技術提案資料の内容に沿った施工をすること。受注者の責により提案内容を満足する施工が行われない場合は、再度の施工を行わせる。再度の施工が困難あるいは合理的ではない場合は、不誠実な行為として取り扱うものとする。また、あわせて工事成績評定の減点対象とし、加算点の範囲内で評価項目の配点に応じた工事成績評定点を減点する。技術提案資料に虚偽の記載があったことが契約後に判明した場合も同様の取扱いとする。
  - (8) 「技能士等の活用」の項目において点を付与された場合、工事完成時に指定したすべての工種（種別）において指定したすべての技能士等を活用した事が確認できる資料（工程表、日報等）を提出すること。提出された資料により指定したすべての工種（種別）において指定したすべての技能士等を活用した事が確認できない場合は、(7)と同様の取扱いとする。
  - (9) 契約締結後、請負者が上記7により配置技術者を変更する場合は、入札公告時に提示した要件により「資格」、「施工経験」及び「継続学習取組状況」の全ての項目について、変更前の配置技術者と同等以上の評価を受けることができる者に変更するものとする。これ以外の配置技術者の変更を行う場合は、(7)と同様の取扱いとする。なお、配置技術者を変更する場合、入札公告時に提示した「施工経験」において評価対象とする工事は「受注者が変更を通知する日の属する年度の8年前の年度の4月1日から受注者が変更を通知する日までに完成し、引き渡し完了した同種工事」とし、「継続学習取組状況」において評価対象とする取組状況は「受注者が変更を通知する日の属する年度の4月1日から受注者が変更を通知する日までの間の任意の日から1年前の間」の取組状況とする。
  - (10) 契約締結前の入札参加者の配置技術者の変更は、事後審査方式の場合（配置技術者からのヒアリングを行った場合を除く）に限り認める。この場合、入札公告時に提示した要件により「資格」、「施工経験」及び「継続学習取組状況」の全ての項目について、変更前の配置技術者の技術評価の結果と同等以上の評価を受けることができる者に、入札参加資格審査時までに変更しなければならない。なお、配置技術者を変更した場合でも、加算点の変更は行わない。
  - (11) 工事完了後、技術提案資料に関する不履行等が発覚した場合は、(7)と同様の取扱いとする。

入札条件

- 13 受注者は建築工事施工にあたっては、告示日又は指名通知日における最新の下記仕様書による。  
 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書 (建築工事・機械設備工事・電気工事編) (令和4年版)  
 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築改修工事標準仕様書 (建築工事・機械設備工事・電気工事編) (令和4年版)  
 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修木造建築工事標準仕様書 (平成31年・令和元年版)  
 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築物解体工事共通仕様書 (令和2年版)  
 山口県福祉のまちづくり条例 (平成24年度改訂版)

- 14 隣接または同一敷地内に他工事がある場合は、十分打合せを行い、相互協力調整し円滑な工事の進捗に努めること。(工程・総合図の作成・安全衛生等)

【隣接又は同敷地内の他工事】

- ・恋ヶ浜緑地公園トイレ棟新築工事(電気設備)
- ・恋ヶ浜緑地公園トイレ棟新築工事(機械設備)
- ・恋ヶ浜緑地公園管理棟新築工事(建築主体)
- ・恋ヶ浜緑地公園管理棟新築工事(電気設備)
- ・恋ヶ浜緑地公園管理棟新築工事(機械設備)
- ・恋ヶ浜緑地公園芝生広場改修工事
- ・恋ヶ浜緑地公園電気設備整備工事

また、入札完了後、隣接または同一敷地内で同市の他工事着手時(道路工事、都市整備工事業上下水道工事等)についても、受注者の責において他工事との工程打合せ、調整を行い、安全円滑な工事の進捗を図ること。

- 15 当該工事の請負額は、

~~1. \_\_\_\_\_ 工事(第 一 区) 2. \_\_\_\_\_ 工事(第 一 区) 3. \_\_\_\_\_ 工事(第 一 区)  
 (以下「指定工事」という。)を受注した場合(共同企業体の構成員も含む)、「当該工事」と「指定工事」の設計額の合計額により定まる率によって算定した共通費から、指定工事に係る共通費を調整した額に落札率を掛けた額で変更契約する。~~

- 16 支払条件

当該工事において、工事請負契約をするとき、中間前払金を選択した場合、当該工事の工期及び出来高が50%以上を経過すれば、中間前払金(請負代金の額の10分の2を乗じて得た額を超えないものとし、10万円未満を切り捨てた額)の請求ができるものとする。

中間前払金制度の対象工事は、前金払いを行う工事であって、入札予定価格の算定の基となる設計金額(消費税含む)が、300万円(税込)以上、かつ工期120日以上 of 工事を対象とする。

なお、前払金と中間前払金の合計額が当請負代金の額の10分の6を乗じて得た額を超えてはならないものとする。

~~また、本工事において、その年度を超えて工期設定がなされている場合の各年度の出来高予定額は概ね下記の比率による。~~

会計年度	出来高予定額
	-0%
請負代金額の	26%
	残 額 以内

~~※ 契約会計年度(平成 \_\_\_\_\_ 年度)には、前払金の支払いは行わない。~~

~~※ 契約会計年度に翌契約会計年度の前払金を含めて支払を行う。~~

~~※ 契約会計年度と翌契約会計年度の各年度に、契約書に定める年度毎の出来高予定額に応じた前払金の支払を行う。~~

~~※ 出来高予定額とは、本工事における各年度毎の工事の進捗割合を金額に置き換えた額とする。~~

~~※ 上記出来高予定額は、予算上の都合により変更することがある。~~

~~※ 年度を超えて、竣工までの日数が120日未満の場合は、その年度の中間前払金の対象外となる。~~

~~※ 会計年度(平成 \_\_\_\_\_ 年度)の請負代金の支払いは、会計年度(平成 \_\_\_\_\_ 年度)の工事の出来高予定額に相応する工事の出来形部分を仕上げたうえでの支払いとする。~~

~~※ 前払金、中間前払金は、各会計年度毎の出来高予定額より行うものとする。~~

~~※ 年度末精算払いは、各会計年度毎の支払限度額より行うものとする。~~

~~※ 支払限度額は出来高予定額に0.9を乗じた額とする。~~

## 指示事項

**1 市内産資材の活用**

受注者は、施工する工事に要する資材の調達に当たり、原則として、市内産資材（市内工場で製造した資材）の購入、又は市内代理店等からの購入に努め、使用材料については、「工事材料使用承諾願」により承諾を得ること。

なお、市内産資材を購入しない場合、及び市内代理店等から購入しない場合は、その理由を付した書面を事前に監督職員に提出すること。

**2 市内企業の下請活用**

受注者は、本工事の施工において、やむを得ず工事の一部を下請負に付す場合は、原則として、市内建設業者の活用に努めること。

なお、市内建設業者を活用しない場合は、その理由を付した書面を事前に監督職員に提出すること。

**3 下請及び資材の利用状況報告**

受注者は、工事請負代金が3,000万円以上の工事については、完成検査終了後2週間以内に「下請工事発注・資材利用状況報告書」を提出すること。

**4 排出ガス対策**

排出ガス対策型建設機械の取扱いは、共通仕様書（1-1-30の6）による。ただし、施工条件書又は特記仕様書において特に指定がある場合は、指定した基準の排出ガス対策型建設機械を使用すること。これによりがたい場合、受注者は、使用する建設機械（機械の名称、メーカー名、形式、指定番号等）について監督職員と協議し、承諾を得ること。

※排出ガス対策型建設機械の指定状況については国土交通省ホームページを参照のこと。

([http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei\\_constplan\\_fr\\_000002.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_fr_000002.html))

**5 法令の遵守**

(1) 受注者は、工事の施工に当たっては、関係法令を遵守し、常に適切な管理を行うものとする。

(2) 受注者は、工事の施工にあたって、土砂等を運搬するときは、道路交通法（過積載の防止等）、貨物自動車運送事業法（委託運送時の許可業者の使用等）等の関係法令を遵守すること。

また、車両制限令第3条における一般的制限値を超える車両を通行させるときは、事前に道路法第47条の2に基づく通行許可証の写しを監督職員に提出すること。

(3) 受注者は、工事に使用する工事車両について、道路運送車両法（昭和26年法律第185号）第48条の規定による定期点検整備を確実に実施すること。

**6 建設リサイクル**

(1) 本工事が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下「法」という。）及び「特定建設資材に係る分別解体等に関する省令」（以下「省令」という。）の対象工事である場合は、次の各号によらなければならない。

ア 工事契約日前までに、監督職員へ説明書により説明を行うこと。

イ 法第13条及び省令第4条の規定する書類を監督職員に提出すること。

ウ 契約書に記載する解体工事に要する費用等は、受注者から提出される法第13条及び省令第4条に基づく書面に基づき作成される。

エ 法第13条及び省令第4条に基づく書面の作成方法は以下のとおりとする。

(ア) 解体工事に要する費用及び再資源化に要する費用は直接工事費とする。

(イ) 再資源化に要する費用は、再資源化施設への搬入費に運搬費を加えたものとする。

オ 再資源化に要する費用の変更は、数量増減のみの変更とし、再資源化に要する単価は正当な理由がある場合を除いて原則変更しない。

(2) 受注者は、「建設副産物適正処理推進要綱」（平成14年5月国土交通省）、「建設廃棄物処理指針」（平成23年3月環境省）に基づき、「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を作成し、施工計画書の「再生資源の利用の促進」に関する事項として監督職員に提示すること。

また、受注者は、再生資源利用促進計画書様式に掲載されている建設副産物が工事現場から発生する場合には、「再生資源利用促進計画書」を作成し、施工計画書の「再生資源の利用の促進」に関する事項として監督職員に提出するとともに、計画を工事現場の見やすい場所に掲示すること。工事完了時に、「再生資源利用促進実施書」を作成し、監督職員に提示すること。

なお、受注者は、計画書及び実施書を工事完成後5年間保存すること。

再生資源利用（促進）計画書及び実施書は、原則として建設副産物情報交換システム（COBRIS）により作成すること。

なお、COBRISにより作成できない場合は、国土交通省ウェブサイト（[https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page\\_03060101credas1top.htm](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credas1top.htm)）に掲載の「建設リサイクル報告様式」により作成することとし、工事完了後に「再生資源利用〔促進〕実施書」のEXCELデータを提出すること。

※建設副産物情報交換システムを参照のこと。<http://www.recycle.jacic.or.jp/>

(3) 受注者は、500m<sup>3</sup>以上の建設発生土を搬出する場合、発注者へ搬出先の盛土規制法等の許可や工事現場の土壌汚染対策法等の手続状況を確認し、その確認結果票を作成すること。確認結果票は、再生資源利用促進計画の一部として取り扱い、現場掲示や保存を行うこと。

また、建設発生土を運搬する者に対し、建設発生土の搬出先の名称・所在地及び搬出量並びに確認結果票の内容を通知すること。これらの内容に変更があった時も同様とする。

## 7 建設発生土

建設発生土の有効利用等については、以下のとおり取扱う。

- (1) 現場内及び公共工事間の流用に努めるものとし、やむを得ず残土が発生する場合は、設計図書に明示された搬出先に処分を行うこと。
- (2) 設計図書（施工条件書等）に搬出先が明示されている場合であっても、実施工程において公共工事間での調整が可能な場合は処分から流用に変更することや、工事間での調整がスムーズに進まない場合はストックヤードに一時堆積するなど、柔軟な対応により残土の抑制に努めること。
- (3) 設計図書（施工条件書等）において民間残土処理場を搬出先としている場合は、「残土処理場に関する届」及び関係図面等を監督職員に提出し、承諾を得ること。なお、受注者が承諾済みの民間残土処理場以外の場所への搬出を希望する場合は、監督職員等の審査・承諾を受けた上で、搬出先とすることができるものとする。
- (4) 受注者は、本工事が搬出元となる場合、搬出先から受領書の交付を受け、搬出情報を確認するとともに、監督職員または検査職員から請求があった場合は速やかに受領書の写しを提示すること。また、受領書又はその写しを工事完了後5年間保存すること。
- (5) 本工事が搬出先となる場合、受注者は搬出元に対し、搬入完了後速やかに受領書の交付を行うこと。
- (6) 受注者は、設計図書に購入土が計上されている場合であっても、発注者が他工事等からの流用が可能と判断した場合は、有効利用の観点から、原則として設計図書を変更するものとする。

## 8 コリンズの登録

受注者は、工事請負代金額 500 万円以上の工事について、コリンズ（工事实績情報システム）（（一財）日本建設情報総合センター（以下、「JACIC」という。））に基づき、「通知書」を作成し、監督職員の確認を受けた後に、JACICへ登録するとともに、JACIC発行の「登録内容確認書」の写しを監督職員に提出すること。

なお、提出の期限は、以下のとおりとする。

- (1) 受注時登録データの提出期限は、契約締結後、土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内とする。
- (2) 完了時登録データの提出期限は、工事完成後、土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内とする。
- (3) 施工中に、受注時登録データのうち、工期、現場代理人、主任技術者、監理技術者のいずれかに変更があった場合は変更があった日から、土曜日、日曜日、祝日等を除き 10 日以内に変更データを提出すること。

## 9 公共事業労務費調査への協力

- (1) 本工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合、受注者は、調査表等に必要事項を正確に記入し発注者に提出する等、必要な協力を行うこと。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。
- (2) 調査表等を提出した事業所を発注者が事後に訪問して行う調査指導の対象に受注者がなった場合、受注者は、その実施に協力すること。また、本工事の経過後においても、同様とする。
- (3) 公共工事労務費調査の対象工事となった場合に正確な調査表の提出が行われるよう受注者は、労働基準法等に従って就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行うこと。
- (4) 受注者が本工事の一部について下請け契約を締結する場合には、受注者は当該下請け工事の発注者（当該下請け工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が前3項と同様の義務を負う旨を定めること。

## 10 施工合理化調査への協力

受注者は、国土交通省が実施する施工合理化調査（施工合理化調査、施工形態動向調査、施工状況モニタリング調査、諸経費動向調査、施工情報調査）の対象工事となった場合は、別に定める各調査の実施要領により調査表を作成し提出する等、必要な協力を行うこと。

## 11 建設副産物実態調査への協力

受注者は、国土交通省が実施する建設副産物実態調査対象工事となった場合は、調査表の提出等、必要な協力を行うこと。

## 12 技能労働者への適切な賃金水準等に関するアンケート調査

受注者は、発注者が実施する技能労働者への適切な賃金水準等に関するアンケート調査の対象工事となった場合は、自らアンケートに回答するとともに、下請企業に対して調査への協力を要請する等、必要な協力を行うこと。

**13 発注者支援業務委託**

受注者は、建設コンサルタント等に委託した担当技術者が配置された場合には、次の各号によらなければならない。

- (1) 担当技術者が監督職員に代わり現場で立会等の臨場をする場合には、その業務に協力しなければならない。又、書類（計画書、報告書、データ、図面等）の提出に関し、説明を求められた場合はこれに応じなければならない。ただし、担当技術者は、契約書第9条に規定する監督職員ではなく、指示、承諾、協議及び確認の適否等を行う権限は有しないものとする。
- (2) 監督職員から受注者に対する指示又は、通知等を担当技術者を通じて行うことがあるので、この際は監督職員から直接指示又は、通知等があったものと同等とする。
- (3) 監督職員の指示により、受注者が監督職員に対して行う報告又は通知は、担当技術者を通じて行うことができるものとする。
- (4) 担当技術者等が配置された場合の監理技術者の氏名及び担当技術者の氏名は対象工事毎に別途通知する。

**14 建設業退職金共済制度**

建設業退職金共済制度に加入している共済契約者（事業主）は、建設業退職金共済組合と共済契約を結び証紙を購入したうえ、金融機関の発行する掛金収納書（写）を提出すること。

**15 暴力団等の排除**

- (1) 暴力団等（暴力団、暴力団関係企業など不当介入を行うすべての者をいう。）から不当介入（不当要求及び工事妨害をいう。）を受けた場合は、その旨を直ちに発注者に報告し、所轄の警察署に届け出ること。

なお、報告を怠り、後で判明した場合は、不誠実な行為による指名停止を検討する。

- (2) 暴力団等から不当介入による被害を受けた場合は、その旨を直ちに発注者に報告し、被害届けを速やかに所轄の警察署に提出すること。
- (3) 発注者及び所轄警察署と協力し不当介入の排除対策を講じること。
- (4) 当介入により工期の延長が生じると認められる場合は、約款の規定により発注者に工期延長等の請求を行うこと。

**16 標示施設等の設置**

工事現場における標示施設等については、「工事現場における標示施設等の設置基準」によるものとし、工事標示板の工事内容及び工事種別の記載は施工条件書によることとする。

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/127/23378.html#2>

**17 公共工事の一斉土曜閉所の取組**

建設業における将来の担い手の確保・育成に向け、建設現場の週休2日を実現するため、国・県・市町等の県内の発注機関が発注する工事において、一斉土曜閉所の取組を実施する。

なお、現場閉所実施日においては、終日、工事及び測量等の現場作業や現場事務所での事務作業を行わないものとする。

指示事項

18 図面はデータでの配布となる。縮小印刷や出力機の不具合等による錯誤は請負者の責任となる  
また、紙での配布を希望するときは監督職員に申し出ること。  
【データサイズ A2】

19 中間検査について  
原則として、7回以上<sup>（7回以上）</sup>の中間検査を実施する。なお、実施段階は下表のとおりとし、検査実施日  
については別途指示する。

工種	実施段階
仮設工事	建物位置出し、GL設定確認
鉄筋工事	鉄筋配筋時
型枠工事	型枠設置後(鉄筋工事同時可)
コンクリート工事	コンクリート受け入れ時
木工事	建て方工事後
防水工事	防水下地施工完了後
仮設工事	外部足場解体前外観検査

20 各保証書は契約工期完了日の翌日からとし、メーカー・下請業者・元請業者連名の保証書を提出  
すること。(保証書の必要な部位については監督員の指示による。)  
なお、防水工事(雨漏れに関するもの等)は10年間、機器・設備・什器等は1年間とする。

21 工事請負代金が3,000万円を超える場合は、現場引取り日から1年目・2年目に不具合等の  
確認(契約不適合)を行う検査を実施し報告すること。3,000万円以下の場合は2年目までに  
随時実施するものとする。不具合等が発見された場合は、受注者の責任において、補修等を実施  
すること。

22 工事着手前に現地を確認するときは、事前に監督員に許可を得ること。

23 提出書類の種類・様式・添付資料・提出時期等については、別添の提出書類一覧に  
よる他、監督職員の指示による。提出書類は、監督員の指示する竣工引継書にまとめ  
提出すること。提出予定一覧をもとに、書類、図書の提出状況の追尾、管理を行うものとする。

24 工事着手前に、施工計画書、施工図等の書類・図書の提出予定一覧を作成、提出し  
工事監理者、監督員の承諾後に工事着手とする。

25 建築主体工事では、電気設備工事、機械設備工事の施工図をもとに、総合図を作成し  
提出すること。工事監理者、監督員の承認を経て工事着手とする。  
総合図の作成内容については監督職員と協議すること。

26 建築主体工事では、電気設備工事、機械設備工事と相互協力をし、工程の調整を行い工事を  
進めること。

27 月間工程表は、建築主体工事が電気設備工事、機械設備工事との工程を取りまとめたものを  
毎月月末に監督職員、施設関係者、契約担当課担当者等へ配布すること。

28 施設範囲内及び搬出入路の安全対策・清掃を十分に行うこと。実施については  
建築主体工事施工者が関係業者のとりまとめを行うこと。

29 同一敷地内にて園内の広場改修工事、給排水設備工事、電気設備工事、管理棟新築工事が  
行われるため、敷地内経路、仮設計画、安全計画の調整を相互に行うこと。

- 30 工事前に総合施工計画書、仮設計画書、契約工程表を作成し、関係者に工事内容の説明を行い、工事監理者、監督員の承諾を得ること。
- 31 施設関係者・利用者の安全に留意し、施設運営に配慮した施工計画を作成すること。また、工事とは別に施設関係者・利用者への安全通路を確保すること。
- 32 工事範囲内の関係者以外の立入りを制限し、防犯、安全対策を講じる計画とすること。
- 33 受注者は関係法令を遵守した工事の安全対策を講じ、工事の安全に最大限努めること。
- 34 現場では、日々KY活動を行い、記録を監督職員に提出すること。
- 35 工事変更箇所が生じた場合、速やかに監督職員に報告すること。監督職員からの許可が下りない限り当該工事に着手してはならない。
- 36 発生残土は指定の公共残土処理場（米川残土処理場）に運搬し処分すること。発生土の処分費用は無償とする。

37 ~~—改修工事・撤去工事等では、取り扱う建材に石綿が含有されているかの事前調査を行い監督職員へ報告すること。~~  
~~—上記事前調査内容は、電子申請により、労働基準監督署、所管保健所へ報告を行い、報告結果を書面で監督職員へ報告すること。（大気汚染防止法、労働安全衛生法・石綿障害予防規則）~~

38 ~~—アスベスト事前調査業務関連にて、市が貸与可能な資料は以下のとおりとする。~~

- ~~・建築当初設計図~~
- ~~・改修履歴(図面ほか)~~
- ~~・事前調査業務委託報告書~~
- ~~・対象建材アスベスト分析調査結果報告書(下記表による)~~

分析箇所	調査部位	分析日	含有有無	含有層

- 39 本工事では、積算、工事費内訳書の作成の効率化を図ることを目的に、数量書を公開する。数量書は、参考資料として公開及び提供するものとし、数量書に関する質疑は受け付けない。また受注者が作成した内訳書の数量と下松市が公開した数量書の数量に差が生じた場合でも、当該差のみをもって契約変更の対象とはしないものとする。
- 40 週休二日モデル工事において、現場閉所(現場休息)の状況に応じた補正係数などにより労務費(予定価格のもととなる工事費の積算に用いる、複合単価、市場単価、補正市場単価、物価資料の掲載価格の労務費)を補正する。